

2023年 10月 18日

国土交通大臣
齊藤 鉄夫 殿

コンクリート舗装の推進に関する要望書

一般社団法人 セメント協会
会 長 不死原 正文

コンクリート舗装の推進に関する要望

わが国では、人口減少・超高齢化社会の到来に直面し、社会資本は急激な老朽化が懸念されています。同時に、近年多発する自然災害への備えの必要性も高まっており、限られた予算を効果的に使うことが求められています。また、資源に乏しい日本においては、土木資材の自給や資源の循環利用も非常に重要となります。

道路分野においては、国土強靱化に資する舗装の長寿命化やライフサイクルコスト（LCC）の削減が求められています。一般社団法人セメント協会では、耐久性、LCCの面で優れ、環境にも優しいコンクリート舗装について、材料の試験・研究や、各種講習会の開催など、普及活動に取り組んでおります。

セメントコンクリートは、ほぼ唯一国内で100%自給できる土木資材であり、その主要材料であるセメントは製造において大量かつ多様な廃棄物・副産物を循環利用しています。例えば、建設発生土や下水汚泥、災害廃棄物などであります。年間のセメント生産量5,600万トンに対し、循環利用される廃棄物の利用量は2,600万トンにも達し、国内の資源循環利用の12%を占めています。さらに、セメントはその生産において最終処分が必要な廃棄物をほぼ排出しないため、静脈産業として資源の有効活用のみならず最終処分場の延命にも大きく寄与しております。このようにコンクリート舗装を活用することは、土木材料の自給率向上だけでなく環境へも大きく貢献することになります。

国土交通省におかれましては、LCCの向上を主軸として適材適所でコンクリート舗装の採用が進めて頂いているところでありますが、いまだトンネル部での採用が多く、明かり部での活用は停滞しております。コンクリート舗装はLCCの向上だけでなく、地震等の災害時にも緊急交通の確保ができ、国土強靱化にも資する技術でもあります。今後とも、道路行政の推進に当たりましては、LCCの向上を主軸としながら、国土強靱化や土木材料の自給・資源循環利用の観点からも、コンクリート舗装の活用に対しまして、特段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

- ・直轄事業におけるLCCを主軸とした適材適所でのコンクリート舗装の積極活用
- ・国土強靱化の観点から緊急輸送道路などでのコンクリート舗装の適用
- ・国土の基本である道路材料の自給率向上や資源循環の観点からのコンクリート舗装の適用
- ・コンクリート舗装を担う人材の育成、計画・設計・施工技術の向上のための施策の実施

一般社団法人セメント協会 加盟会社一覧

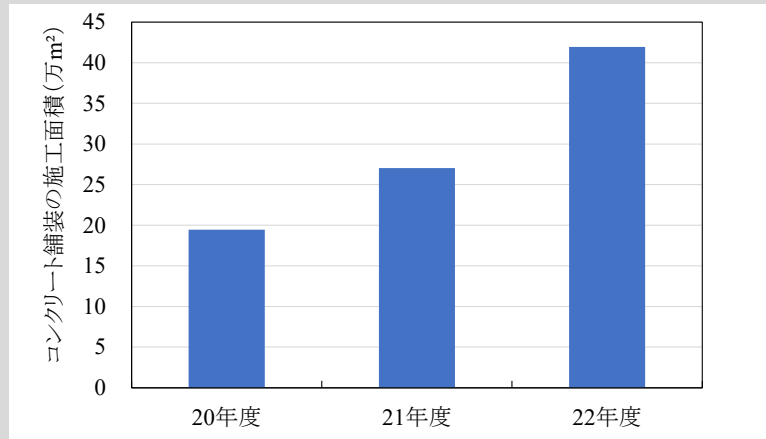
2023年7月26日現在

八戸セメント株式会社	代表取締役社長	明代 知也
日鉄高炉セメント株式会社	代表取締役社長	江頭 秀起
日鉄セメント株式会社	代表取締役社長	橋本 康裕
東ソー株式会社	代表取締役社長 社長執行役員	栗田 守
株式会社トクヤマ	代表取締役 社長執行役員	横田 浩
琉球セメント株式会社	代表取締役社長	喜久里 忍
苅田セメント株式会社	代表取締役会長	麻生 泰
太平洋セメント株式会社	代表取締役社長	不死原正文
敦賀セメント株式会社	代表取締役社長	山本 学
株式会社デイ・シイ	代表取締役社長	上野山佳志
デンカ株式会社	代表取締役社長	今井 俊夫
麻生セメント株式会社	代表取締役会長	麻生 泰
UBE三菱セメント株式会社	代表取締役社長	小山 誠
明星セメント株式会社	代表取締役社長	高木 功
日立セメント株式会社	代表取締役 社長執行役員	株木 康吉
住友大阪セメント株式会社	代表取締役 取締役社長	諸橋 央典

以上

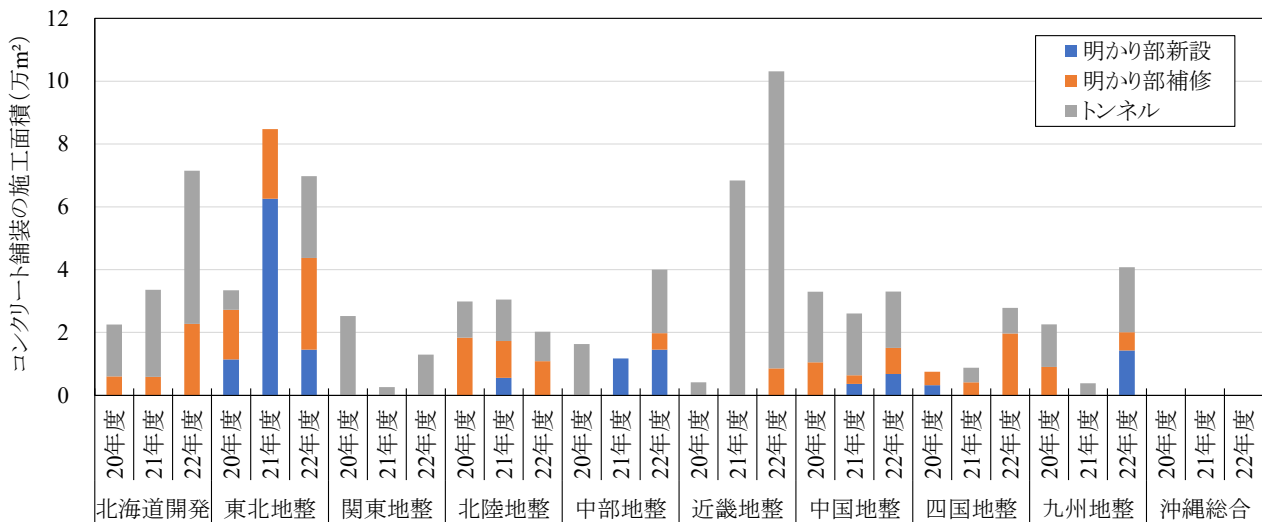
コンクリート舗装の活用状況

- ・直轄国道においてはコンクリート舗装の採用が堅調に推移しており、道路統計年報によると最近10年では毎年約30km²ずつコンクリート舗装が延伸している



直轄国道におけるコンクリート舗装の施工面積の推移

- ・施工面積は各地整で濃淡がある、トンネル部での採用が多く明かり部では少ない
- ・施工条件等により採用が難しい箇所もあるが、LCC削減や資源循環利用の促進のためトンネルに加えて、明かり部や盛土区間においても積極的に採用を進めて頂きたい



2020～2022年度の各地方整備局におけるコンクリート舗装の施工面積

(上記グラフはともに20年、21年度はPPIより、22年は各地整へ聞き取り調査を実施
発注数におけるカバー率は20年76%、21年88%、22年100%)

地震直後も交通を止めないコンクリート舗装

- ・地震による液状化により不等沈下が発生し、表層が最大で20cmほど沈下したが、時速60km程度で走行可能であり、緊急車両等の交通を維持した
- ・災害時における緊急交通を確保する観点からもコンクリート舗装を活用頂きたい



鳥取県中部地震(震度6弱)で被災した国道9号北条パイパスのコンクリート舗装
(側道のアスファルト舗装は10cm以上の段差が発生した)

セメント協会のコンクリート舗装普及活動

主催セミナー	<ul style="list-style-type: none">・各地方整備局等において日本道路協会と共催で「より永くコンクリート舗装を使うためのポイント集」などを活用したコンクリート舗装に関する講習会を開催 (22年11月～23年7月において6地整、沖縄総合事務局)・都道府県においてコンクリート舗装の設計や補修講習会を開催 (22年12月～23年7月において4か所、北海道、秋田、愛知、大分)
情報発信	<ul style="list-style-type: none">・月刊セメントコンクリート誌におけるコンクリート舗装適用事例の周知 (22年10月～23年8月において国道3か所、県道1か所)・技術展示会等におけるコンクリート舗装に関するパネル展示 (22年度2か所)
動画配信	コンクリート舗装の基礎知識や1DAYPAVE製造施工マニュアルのポイントの2動画を配信 2,600名視聴(2021年3月～2023年7月)